

FICoN第3回ウェブ検討会 (R4.2.24)

○「持続的循環を支える林業システム・イノベーションへの期待」 ～育苗から保育まで、科学的見地に基づく技術の最前線～

<講演>

- 「人工林の再造林にまつわる課題、その解決に向けた研究プログラムの紹介」 森林総合研究所 宇都木氏
- 「成長の良い苗木の作出に貢献する林木育種と育苗成法」 森林総合研究所林木育種センター 山野邊氏
- 「ドローンで林地の情報を集めて下刈り作業を効率化」 森林総合研究所 山川氏
- 「本当に大変、獣害とコスト、その解消に向けた課題」 森林総合研究所 野宮氏
- 「何故進まない再造林 -再造林コストの見える化に向けたシステム開発-」 森林総合研究所 鹿又氏

<総合討論>

(司会) FICoN副ファシリテーター 酒井秀夫氏、(パネリスト) 上記講師の皆様

【ポイント】

- ・立木価格は低下傾向にあり、主伐収入で再造林・育林経費を賄うことが難しい状況。経費の低減に向けて、2009年ごろからプロジェクト研究を推進。
- ・成長の良い苗木については、系統の選抜、普及、種子生産及び育苗成法がポイント。エア挿し技術の開発やコンテナ苗の施肥条件の最適化など成果をあげている。
- ・ドローンを活用した下刈作業の効率化については、スギの植栽木が雑草木から抜け出ているかなど林地の情報を集め、下刈すべきエリアを決めることも可能となっている。
- ・シカ対策では高下刈(スギが埋もれない程度までの下刈)の効果を検討し、食害抑制にある程度の効果があること、作業効率が向上することなど成果をあげている。
- ・施業コストについては、暫定版ではあるが、成長に優れた苗木に対応したシミュレーションができるシステムを提供。